

事業群評価調書(令和6年度実施)

| | | | | |
|-------|--------------------------------|----------------|--|-------|
| 基本戦略名 | 3-2 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る | 事業群主管所属・課(室)長名 | 文化観光国際部 スポーツ振興課 | 川瀬 亨介 |
| 施策名 | 5 特色ある文化資源・スポーツによる地域活性化 | 事業群関係課(室) | 障害福祉課 | |
| 事業群名 | ③ スポーツによる地域活性化 | 令和5年度事業費(千円) | ※下記「2. 令和5年度取組実績」の事業費(R5実績)の合計額 85,797 | |

1. 計画等概要

| | | | | | | | | | |
|--|------------|---|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|--|
| (長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文) | | (取組項目) | | | | | | | |
| ラグビーワールドカップ2019™及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における海外チームキャンプの誘致活動で得られた人脈や、受入ノウハウ等を活用し、国内外のスポーツ合宿誘致をさらに推進していくとともに、V・ファーレン長崎及び新たにBリーグへの参入を目指す長崎ヴェルカと連携して、地域のにぎわいづくりを進めます。 | | <ul style="list-style-type: none"> i) プロスポーツクラブと連携した地域活性化の推進 ii) 長崎スタジアムシティプロジェクトと連携した地域活性化につながる各種スポーツイベント等の誘致協力 iii) スポーツ施設や恵まれた自然環境を活用し、地域が主体となったスポーツ合宿・大会の誘致促進 iv) 障害者のスポーツ活動等による社会参加の推進 v) 国内及び近隣諸国で開催される国際大会に向けた海外チームキャンプ誘致の推進 vi) スポーツを通じた国際交流の推進や、観光・物産を含めた本県の情報発信 | | | | | | | |
| 事業群 | 指標 | 基準年 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | 最終目標(年度) | (進捗状況の分析) 令和5年度においては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行といった状況変化により、県全体としては令和4年度と比べてスポーツ合宿参加者数は増加した。その一方で物価高騰による合宿経費増の影響もあり、一部地域では令和4年度より実績が減少したところもあり目標値には届いていない状況。 |
| | スポーツ合宿参加者数 | 目標値① | 6,648人 | 6,914人 | 7,190人 | 7,478人 | 7,777人 | 7,777人 (R7) | |
| | 実績値② | 5,910人 (H30) | 2,681人 | 4,460人 | 5,164人 | | | 進捗状況 | |
| | | 達成率②/① | 40% | 64% | 71% | | | やや遅れ | |

2. 令和5年度取組実績(令和6年度新規・補正事業は参考記載)

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 事務事業名 | 事業費(単位:千円) | | | 事業概要 令和5年度事業内容及び実施状況 (令和6年度新規・補正事業は事業内容) | 指標(上段:活動指標、下段:成果指標) | | | 令和5年度事業の成果等 | |
|-----------------|------|------|--------------------------|------------------------|----------------------|--------------------------|---|---------------------|--------|-------|-------------|---|
| | | | | R4実績 | うち 一般財源 | 人件費 (参考) | | 主な指標 | R4目標 | R4実績 | | 達成率 |
| | | | | R5実績 | | | | | R5目標 | R5実績 | | |
| | | | | R6計画 | R6目標 | | | | | | | |
| 事業実施の根拠法令等 | | | | 事業実施の根拠法令等 | | | 事業対象 | | | | | |
| 事業期間 | | | | 法令による 事業実施の 義務付け | 県の裁量 の余地が ない事業 | 他の評価 対象事業 (公共、研究等) | | | | | | |
| 所管課(室)名 | | | | | | | | | | | | |
| 取組項目 i ii | ○ | 1 | プロスポーツクラブを活用した地域活性化推進事業費 | 20,548 | 18,262 | 3,827 | <ul style="list-style-type: none"> ●事業内容 県内のプロスポーツクラブV・ファーレン長崎と、長崎ヴェルカの活動を支援することで、県民に夢と希望を与え、チームを応援することで県民の一体感と郷土愛の醸成や交流人口の拡大等による地域活性化を図る。 ●実施状況 V・ファーレン長崎及び長崎ヴェルカに対しては、ホームゲームの観客数増を図るため、県民応援フェアを開催するとともに、両クラブと県内全自治体で構成する自治体連携会議を開催し、自治体による集客支援やクラブによる地域貢献活動の促進を図った。 また、V・ファーレン長崎に対しては、県立総合運動公園陸上競技場の使用料減免(減免相当分を指定管理者へ補助)を実施するとともに、レノファ山口戦、町田ゼルビア戦のアウェイゲーム2試合を訪れ、ホームゲームへの誘致活動を行った。 | 【活動指標】 | 3 | 3 | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ●事業の成果 V・ファーレン長崎については、県立総合運動公園陸上競技場の使用料補助などの支援により、クラブの経営安定化に寄与することができた。また、2024シーズンホーム開幕ゲームにて、県民応援フェアを実施し、前年度に実施した県民応援フェアに引き続き1万人を超える観客動員となった。さらに、アウェイゲームにおける対戦チームサポーターの誘客活動を実施するとともに、長崎の観光・物産のPRを行うことができた。 長崎ヴェルカについては、ホームゲームにおいて県民応援フェアを開催し、当日の観客動員は前年度の県民応援フェアの観客動員を上回る人数となった。 ●事業群の目標達成への寄与 県民応援フェアの開催により、多くの観客を呼び込むことで、チームを応援する県民の意識醸成に寄与した。また、自治体連携会議の開催により、クラブと市町が連携した取組を積極的に働きかけることで、プロスポーツ活用による地域活性化の推進に寄与した。 |
| | | | | 21,826 | 20,205 | 6,893 | | アウェイ客に向けたPR回数(回) | 3 | 2 | 66% | |
| | | | | 24,562 | 21,449 | 4,669 | | 【成果指標】 | — | | | |
| | | | R3- | — | — | | | 10,462 | 5,061 | 48% | | |
| | | | スポーツ振興課 | — | — | — | V・ファーレン長崎、長崎ヴェルカ、指定管理者 | | 13,601 | 7,300 | 53% | |
| | | | | | | | | | 13,601 | | | |

| | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|---|---|--------------------|--------|--------|-------|---|--------|---|-------|-------|--|------|
| 取組項目 iii v vi | ○ | 2 | スポーツによる賑わいづくり推進事業費 | 30,584 | 19,242 | 9,184 | <p>●事業内容</p> <p>スポーツ合宿・大会誘致を進める他、東京オリンピックの正式種目に採用されたアーバンスポーツの振興や、国体文化プログラムにも採用されたeスポーツを活用したスポーツの振興に取り組むとともに、国際大会の誘致に向けた関係団体のヒアリングを行うなど、国際交流、交流人口の拡大に向けて積極的に取り組んでいく。</p> <p>●実施状況</p> <p>令和5年度は、プロ・ナショナルチーム7件、実業団14件を含む、50件の接触・訪問を行うことができた。国内チームの合宿については、諫早市のボート競技、壱岐市、五島市の陸上競技のほか、計5チームが初めて本県を訪れるなど、これまでの誘致活動等の成果も見られた。</p> <p>海外チームの合宿受入については、「世界水泳選手権2023福岡大会」に向けた事前キャンプとして、東京五輪のトレーニングキャンプ、事前キャンプを長崎市で実施したボルトガル水泳ナショナルチームの他、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ウクライナの誘致に成功した。また、スケートボード等のアーバンスポーツについて、その普及によりスポーツに親しむ機会の充実や若者の県内定着に繋がる効果が見込まれることから、主に県内在住の子ども達を対象とした「スケートボード体験会」を、長崎市及び佐世保市において開催した。</p> <p>諫早湾干拓事業によってもたらされた豊かな自然環境を有する本明川ボート練習場において、スポーツを通じて地域資源に親しむ機会を創出することを目的とした「第4回 本明川スポーツフェスタ」において、令和5年度は日越外交関係樹立50周年記念長崎県・ベトナムスポーツ交流事業として来県したベトナムローイングチーム等によるレースも実施した。</p> <p>eスポーツの効果について研究・理解するとともに、県内の機運を高めることを目的とし、関係団体や自治体職員等を対象として勉強会を開催した。</p> | 【活動指標】 | 10 | 10 | 100% | <p>●事業の成果</p> <p>・市町等との連絡会議については、計10回の開催することができ、会議においては市町等と課題を共有するとともに、各市町等の誘致方針を踏まえた効果的な誘致を行うことができた。</p> <p>・補助金を用いて誘致した合宿については、年間で13件であるが、補助金がなくとも実施された合宿もあり、長年にわたる誘致活動等の成果が見られた。</p> <p>・産業や観光、福祉、教育等で活用が期待されるeスポーツについては、自治体職員等を対象に勉強会を行い、外部講師による「eスポーツと教育」に関する講演を実施するなど、eスポーツの幅広い活用に向けた機運醸成を図ることができた。</p> <p>●事業群の目標達成への寄与</p> <p>・合宿誘致については目標値には届かなかったが、2024年の箱根駅伝でシード権を獲得するなど、大学駅伝の強豪である大東文化大学陸上競技部の壱岐市への誘致に成功するなど、スポーツ合宿地としてのブランド力の向上を図ることができた。</p> | |
| | | | | 24,940 | 15,206 | 9,191 | | | 市町等との連絡会議実施数(回) | 10 | 10 | | 100% |
| | | | | 30,184 | 20,207 | 9,337 | | | 【成果指標】 | 6,914 | 4,460 | | 64% |
| | | | | R3-7 | — | — | | | スポーツ合宿参加者数(人)(県外の高校生以上(離島地域では島外の高校生以上)) | 7,190 | 5,164 | | 71% |
| | | | スポーツ振興課 | — | — | — | 7,478 | | | | | | |
| 取組項目 iii vi | | 3 | サイクルツーリズム推進事業費 | 1,947 | 1,149 | 7,653 | <p>●事業内容</p> <p>地域資源を活用したサイクルツーリズム振興を行い、交流人口の拡大等を通して地域活性化を図る。</p> <p>●実施状況</p> <p>島原半島3市が島原半島観光連盟を事業主体として進めているサイクリストの受入環境整備に関して、定例会議を実施するほか、半島内でのモニターツアー・試走会や熊本県天草地域、大分県佐伯地域への視察、有識者を招聘した講演会開催に対する支援を行った。</p> <p>九州各県と連携した取組として、九州・山口サイクルツーリズム推進委員会の契約アドバイザーによる講演会や担当者会議に出席し、意見交換を行うとともに、初開催となったツール・ド・九州2023の視察及び関係団体等へのヒアリングを実施した。</p> | 【活動指標】 | 10 | 17 | 170% | <p>●事業の成果</p> <p>・島原半島観光連盟主催のモニターツアーや講演会等に参加し、島原半島の課題を認識したうえで、定例会議を行うことで、定期的な課題解決の支援を実施することができ、サイクリストの受入環境整備を推進することができた。</p> <p>●事業群の目標達成への寄与</p> <p>・サイクルツーリズムの推進に向けて、有識者や先進地の知見を取り入れながらサイクリストの受入環境整備を進めるとともに、地元の機運醸成を図ることで、交流人口の拡大に寄与することができる。</p> <p>・また、九州各県との連携で、より広域の人々へ訴求効果が図られ、さらなる交流人口の拡大に向けて基盤整備を進めることができています。</p> | |
| | | | | 803 | 480 | 5,361 | | | サイクルツーリズム推進に係る関係団体との協議等回数(回) | 15 | 17 | | 113% |
| | | | | 2,017 | 1,603 | 5,447 | | | 【成果指標】 | 10 | 12 | | 120% |
| | | | | R4-7 | — | — | | | サイクリスト受入環境整備箇所数(箇所) | 10 | 10 | | 100% |
| | | | スポーツ振興課 | — | — | — | 10 | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------|---|---|--------------------------|--------------|--------|--------|--|-----------------------------------|--------|-----|------|---|
| 取組項目 iv | ○ | 4 | 障害者スポーツ振興費 | 26,583 | 1,193 | 4,974 | <p>●事業内容 障害に対する理解促進や共生社会の実現に向けた障害者スポーツ大会等の開催や選手への支援</p> <p>●実施状況 長崎県障害者スポーツ大会の開催や、全国障害者スポーツ大会への本県選手団派遣、長崎県障害者スポーツ協会運営費の一部補助を行い、県内の障害者スポーツの普及・振興を図った。</p> | 【活動指標】 | 37 | 17 | 45% | <p>●事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者スポーツの裾野を広げる取り組みとして、障害者スポーツレクリエーション教室を開催し、スポーツに取り組む楽しさと継続を指導した。 ・県障害者スポーツ大会を4年ぶりに有観客で開催したほか、鹿児島県で開催された特別全国障害者スポーツ大会に本県選手団の派遣を行った。 ●事業群の目標達成への寄与 ・県障害者スポーツ大会は、4年ぶりに有観客で開催し、障害者のスポーツ活動等による社会参加の推進に寄与した。 |
| | | | | 30,327 | 2,140 | 4,978 | | 障害者スポーツレクリエーション教室の開催回数(回) | 37 | 19 | 51% | |
| | | | | 33,026 | 3,220 | 5,058 | | 【成果指標】 | 1,395 | 838 | 60% | |
| | | | | 身体障害者福祉法第21条 | | | | 県障害者スポーツ大会参加者数(人) | 1,395 | 864 | 61% | |
| | | | S38- | ○ | — | — | 長崎県障害者スポーツ協会、身体障害者、知的障害者、精神障害者 | | | | | |
| | | | 障害福祉課 | ○ | — | — | | | | | | |
| 取組項目 vi | | 5 | 日本スポーツマスターズ2024長崎大会開催事業費 | / | / | / | <p>●事業内容 日本スポーツマスターズ2024長崎大会の成功に向けて、大会の機運醸成や本県のPRに繋がるような広報等を実施するとともに、競技運営等に対する支援を実施する。</p> <p>●実施状況 大会の開催準備を円滑に進めるため、県内競技団体や市町のほか、医療・経済・観光・物産関係団体などで構成する実行委員会を設立し、大会の運営方針等を決定した。また、大会の機運醸成に向けて、チラシをはじめとした広報物を作成するとともに、大会アンバサダーを委嘱し、大会1年前を記念したキックオフイベントを開催した。</p> | 【活動指標】 | — | — | — | <p>●事業の成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・V・ファーレン長崎のホーム最終戦を活用したキックオフイベントを開催し、宣伝ブース、競技体験コーナーを設けて、ステージイベント等を実施したところ、およそ延べ1,290名の方に参加いただき、大会の機運醸成を図ることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・V・ファーレン長崎のホーム最終戦を活用したことで、県民に加えて県外からの来県者へ大会のPRができ、スポーツを通じた本県の情報発信に寄与した。 |
| | | | | 7,901 | 4,718 | 5,361 | | 日本スポーツマスターズ大会の開催に向けた啓発イベントの開催数(回) | 1 | 1 | 100% | |
| | | | | 87,965 | 58,916 | 20,231 | | 【成果指標】 | — | — | — | |
| | | | | R5-6(名称変更) | | | | マスターズ大会への選手・役員等の参加者数(人) | — | — | — | |
| | | | スポーツ振興課 | — | — | — | 県民、来県者、日本スポーツ協会、日本スポーツマスターズ2024長崎大会実行委員会 | | 10,000 | | | |

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

| | | |
|---|---|---|
| i | <p>プロスポーツクラブと連携した地域活性化の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>両プロスポーツクラブの活躍は県民に大きな夢や感動を与え、県民の一体感や郷土愛を育み、また、上位ステージで活躍するほど全国メディア等での露出や熱心なアウェイサポーターの来訪など交流人口の拡大等に大きく寄与することから、県としても、県内自治体と連携し、今後も積極的にクラブの活動の応援、後押しを行っていく必要がある。</p> <p>V・ファーレン長崎の平均観客動員数は、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった昨シーズンと比較して増加しているものの、他チームとの比較においては、昨シーズンは22チーム中11位、今シーズン(第32節終了時点)は20チーム中8位に留まっており、引き続き、アウェイ客誘致及びホームゲームの県民へのPRに取り組み、観客数を増やしていく必要がある。</p> <p>各市町とプロスポーツクラブの連携・活用については、予算化された事業数が増加しており、各自治体の事業構築に活用できるよう、新規で実施する事業の内容等について自治体連携会議で共有を図っているところであるが、まちづくりや観光など、幅広い分野での活用をさらに進めていく必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>県民のホームゲーム観戦者数増につなげるため、県民応援フェアの内容充実(魅力アップ)を検討するとともに、県のみではなく、県内各市町においても万遍なくホームゲームの広報を実施するよう機会を捉えて呼びかけを行っていきたい。</p> <p>アウェイ客誘致については、各クラブと連携したPR活動を実施するほか、より効果的なアウェイ客誘致策を検討していきたい。</p> <p>幅広い分野でのクラブの活用については、県民が両クラブに触れる機会が増え、クラブに対する県民の愛着醸成につながるとともに、各市町にとっては、クラブの集客力を活かした事業実施が可能となることから、自治体連携会議において県の事例を紹介するとともに、スポーツ所管部署以外の職員もオンラインで参加してもらうなどの取組を行っていききたい。</p> <p>両クラブの誘客増加に向けた取組については、長崎スタジアムシティプロジェクトの状況も踏まえながら、検討していきたい。</p> |
|---|---|---|

| | |
|---|---|
| <p>ii 長崎スタジアムシティプロジェクトと連携した地域活性化につながる各種スポーツイベント等の誘致協力</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 長崎スタジアムシティプロジェクトを機に、多くの県内外の人が訪れ、まち全体を回遊して賑わいを生み出していくような効果の創出を検討するため、事業主体であるジャパネットホールディングス、地元経済界、長崎市等を含め官民での協議を進めている。 長崎スタジアムシティのスタジアムとアリーナについては、それぞれ、サッカー・V・ファーレン長崎とバスケットボール・長崎ヴェルカの本拠地として公式戦等が行われることになるが、それ以外の日程について、ジャパネットホールディングスとしては、各種スポーツイベント等の誘致を行っていく意向であり、今後、県として何ができるか、引き続きジャパネットホールディングス、地元長崎市をはじめとする関係者と具体的に協議していく必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性 長崎スタジアムシティへのスポーツイベントの誘致については、V・ファーレン長崎や長崎ヴェルカが持つ日本トップリーグ連携機構などのコネクションを活用し、ジャパネットホールディングス自らが誘致活動を行う意向であるが、県としても、ジャパネットホールディングス側から具体的な要望等があれば、誘致活動の助力となるよう、長崎県スポーツコミッションの支援制度を活用した共同での誘致活動を提案するなど、関係者との役割分担の中でできる限りの対応を行う。</p> |
| <p>iii スポーツ施設や恵まれた自然環境を活用し、地域が主体となったスポーツ合宿・大会の誘致促進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 スポーツ合宿・大会の誘致は、交流人口の拡大とともに、選手と住民との交流を通じた地域のスポーツ振興に寄与できることから、観光関係者、スポーツ関係者両方にとって高い需要があり、特に観光業界においては閑散期対策としてより効果的である。また、合宿・大会参加のために来県したスポーツ選手と県内子どもたちとの交流体験や、それに伴う競技力向上も期待されている。 トランスコスモススタジアムについて、V・ファーレン長崎のホームスタジアム移転により、新たな活用策の検討が必要となっている。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性 合宿・大会誘致について人脈やノウハウを有しているスポーツコミッションにおいて、市町ごとに競技団体、施設管理者、観光関係団体等との連絡会議を開催するとともに、県内競技団体等の有識者や市町のスポーツ関係部局等によるスポーツ合宿等の誘致に関する意見交換を行う。また、トランスコスモススタジアムの活用については、施設管理者や競技団体などの意向も踏まえながら、スポーツ大会等の誘致を検討していく。</p> |
| <p>iv 障害者のスポーツ活動等による社会参加の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 県内各地域に出向き、スポーツレクリエーション教室を開催することで、これまでスポーツに接する機会がなかった障害者の活動の機会を広げ、さらに、障害者が身近でスポーツを楽しめるように、「障害者スポーツ人材バンク」を設置し、養成した指導者等を学校等に派遣し、スポーツの指導や模範演技等を行う活動を行ってきた。令和5年度についても、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、スポーツレクリエーション教室の開催回数が減少している。 県障害者スポーツ大会の参加者数については、新型コロナウイルス感染症拡大前と比較して、徐々に回復傾向ではあるものの、目標値に達していない。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性 障害者向けのスポーツレクリエーション教室を開催し、障害者の社会参加、生活の質の向上のための支援を継続していくほか、健常者も実施可能な障害者スポーツレクリエーション教室も開催し、健常者と障害者の交流する場の提供を行っていく。 県内障害者トップアスリートの強化対策の支援を積極的に行うことで、障害者スポーツの機運醸成及び理解・普及促進を図る。</p> |
| <p>v 国内及び近隣諸国で開催される国際大会に向けた海外チームキャンプ誘致の推進</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題 これまでの誘致活動で築いた各国のオリンピック委員会や競技団体等とのコネクションを活用し、令和5年7月には、世界水泳2023福岡大会の事前キャンプとして、本県で東京オリンピックの事前キャンプを実施したポルトガルのほか、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ウクライナの4か国5チームの受入を行うことができた。 2024年5月に開催された世界パラ陸上神戸のポルトガルチームの事前キャンプ誘致に取り組んだが、同年8月から開催されるパラリンピックに予算を割くため、国内での事前キャンプ自体が行われず、誘致は実現しなかった。事前キャンプを実施するチームは、キャンプを実施したことがある場所を候補とするため、新たに提案していくのは難しく、効果的なアピールを行うためには、事前に情報を入手し早い段階で受入市町と体制を構築して誘致活動を行う必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性 今後も国内や近隣諸国で国際大会について情報収集を行うとともに、受入市町の意向も踏まえながら、東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致で培った人脈や受入ノウハウを活かし、東京2025世界陸上や第20回愛知・名古屋アジア競技大会などを見据えて誘致活動を積極的に行っていく。 国際スポーツ大会の誘致については、中央競技団体や市町を巻き込んで進めていく必要があることから、知事トップセールスも交えながら、誘致成功の可能性を最大限高められるよう取り組んでいく。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>vi スポーツを通じた国際交流の推進や、観光・物産を含めた本県の情報発信</p> <p>●実績の検証及び解決すべき課題</p> <p>令和5年7月に受け入れた世界水泳2023福岡大会に向けたポルトガル水泳チームの事前キャンプでは、長崎市の小学校を訪問し、子供たちとの交流を行うことができた。また、日越外交関係樹立50周年記念事業として、ユース世代のスポーツチームの相互派遣を行い、本県とベトナムの関係をさらに深めるとともに、スポーツを通じた青少年の健全な育成を図ることができた。特に派遣については、県サッカー協会や民間企業等で組織した実行委員会により渡航費用を負担することができた。ベトナムへ遠征したクラブチームからの反響も良く、民間主導で国際交流が継続できるように働きかけを行いたい。日本スポーツマスターズ2024長崎大会については、本県の認知度向上を図るため、引き続き効果的な情報発信に取り組むとともに、大会関係者向けに県内周遊を促すよう取り組む必要がある。</p> | <p>●課題解決に向けた方向性</p> <p>今後も海外関係事業の際には、参加する選手の負担にならない範囲で、国際交流の場を設けることや観光地・物産のSNSなどによる発信を促進し、キャンプ等を受け入れた際の事業効果を最大限に活用できるよう教育、国際、物産、観光関係の部署と連携して工夫しながら、事業を実施する。</p> <p>民間同士のスポーツ交流について、国際関係の部署と連携しながら、カウンターパートの紹介など交流に必要な情報の共有を行っていく。</p> <p>日本スポーツマスターズ2024長崎大会については、マスメディアやSNS等を活用した情報発信に加え、大会アンバサダーや本県出身の著名人を活用したPR動画、大会100日前を記念したイベントによる機運醸成を図る。また、大会を機に来県される方に県内を周遊していただき本県の魅力に触れていただけるよう、旅行商品造成など効果的な周遊対策に取り組む。</p> |
|--|---|

4. 令和6年度見直し内容及び令和7年度実施に向けた方向性

| 取組項目 | 中核事業 | 事業番号 | 令和6年度事業の実施にあたり見直した内容 | | 令和7年度事業の実施に向けた方向性 | | |
|---------------|------|------|--------------------------|--|---------------------------------------|--|--------|
| | | | 事業期間 | 所管課(室)名 | ※令和6年度の新たな取組は「R6新規」等と、見直しがない場合は「―」と記載 | 事業構築の視点 | 見直しの方向 |
| 取組項目 ii | ○ | 1 | プロスポーツクラブを活用した地域活性化推進事業費 | 離島の子どもたちを対象としていた「スタジアム体験ツアー」については、自治体連携会議での意見等を踏まえ、対象地区を16市町に拡大したほか、長崎ヴェルカのホームゲームも実施対象とした。 | ①⑤⑥ | トップリグであるB1残留となった長崎ヴェルカは、引き続き観客増や交流人口の拡大に向けた好影響が期待できる(昨シーズン平均入場者数/B1:4,617人 B2:2,304人)。また、V・ファーレン長崎も、J1在籍時(2018年)のホームゲーム平均観客数は、J2在籍期間における平均観客数の倍以上(平均観客数/J1在籍時:11,225人 J2在籍期間:5,553人)であったことから、トップリグへの在籍は、当事業の目的である交流人口の拡大等による地域活性化に大きく寄与すると考えられる。 | 改善 |
| | | | R3- | また、アウェイ対策について、アウェイゲーム訪問によるPR活動の効果を検証した結果、令和6年度からは実施しないこととした。その代替策として、より多くのアウェイサポーターに向けて本県の観光等の情報が届くよう発信力が高いクラブのSNSを活用したPRを実施することとした。 | | | |
| | | | スポーツ振興課 | | | | |
| 取組項目 iii v vi | ○ | 2 | スポーツによる賑わいづくり推進事業費 | 組織体制について、より効率的、効果的な業務遂行のため、これまで当課職員兼務で対応していたポストについて、スポーツコミッション職員を配置する見直しを行った。 | ⑤⑥⑧ | 国際大会等大規模な大会の誘致については、知事トップセールス等の手法も検討しながら、誘致成功の可能性を最大限高められるよう取り組む。 | 改善 |
| | | | R3-7 | また、県民のスポーツへの関心を高めるため、これまで長崎市と佐世保市で実施してきたアーバンスポーツ体験会について、市町のニーズを踏まえ、上記2市以外で実施する。 | | | |
| | | | スポーツ振興課 | | | | |
| 取組項目 iii v vi | ○ | 3 | サイクルツーリズム推進事業費 | 島原半島においては、引き続き財政的支援や助言を行い、サイクリングルートの充実や地域の機運醸成などサイクリストの受入環境整備を進めていく。大村湾南部地域については、ルート上の自治体や関係団体等と試走会や意見交換会を行い、今後の活用について協議を行う。 | ②⑤⑥ | 島原半島地域においては、受入環境整備の大方の完了に向けて取り組むとともに、国内外からのサイクリストの誘客に向けて、PR・プロモーションを関係者と連携して取り組む。 | 改善 |
| | | | R4-7 | また、九州・山口サイクルツーリズムにおいては、国際サイクルイベントの本県開催を検討する。 | | | |
| | | | スポーツ振興課 | 大村湾南部地域は関係自治体と連携し、サイクリスト受入環境整備の計画策定や地域の機運醸成について協議を行い、実施主体の立ち上げを検討する。 | | | |

| | | | | | | | |
|------------|---|---|--------------------------|---|-----|--|----|
| 取組項目 iv | ○ | 4 | 障害者スポーツ振興費 | パリアリンピック競技大会及び第25回夏季デフリンピックへの出場が期待される本県選手の強化を図るため、国内外の各種大会等へ参加するために必要な遠征費等の助成を実施する。 | ②⑥⑨ | 事業の一層の効果促進を図るため、各種広報媒体を活用して、障害者スポーツを広く周知していくとともに、健常者と障害者の交流の場としてスポーツ教室を引き続き実施する。また、第25回夏季デフリンピックに向けて、県内の障害者アスリートの支援を行っていく。 | 改善 |
| | | | S38- | | | | |
| | | | 障害福祉課 | | | | |
| 取組項目 vi | | 5 | 日本スポーツマスターズ2024長崎大会開催事業費 | 引き続き、関係団体と連携して大会の開催準備を進めるとともに、大会アンバサダーを活用したPR動画をはじめ、広報物による機運醸成や効果的な情報発信に取り組む。また、競技団体による競技運営事業や開催市町による歓迎・おもてなし関連事業に対する支援に取り組む。 | — | — | 終了 |
| | | | R5-6(名称変更) | | | | |
| | | | スポーツ振興課 | | | | |

注:「2. 令和5年度取組実績」に記載している事業のうち、令和5年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができていないか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点